広報 よろん

平成25年 11月号

ひとの動き（平成25年10月末現在）
○人口 5,476人（男2,659人・女2,817人） ○2,492世帯

9・10月分 ○出生 9人 ○転入 39人 ○死亡 7人 ○転出 28人

国指定重要無形民俗文化財
与論十五夜踊り

TOWN YORON OFFICIAL INFORMATION 2013.11 VOL.294

教育長就任あいさつ

町岡　光弘

この度、十月一日付けで教育長職を拝命いたしました。那間出身で、大島高等学校与論分校第二回卒業生です。大学を山梨県で過ごし、瀬戸内町立久慈小中学校をスタートに、この三月に奄美市立名瀬中学校で定年退職して帰郷いたしました。これまで小さな頃からお見守り・励ましていただきました皆様にこの紙面をお借りして心よりお礼を申し上げます。実質島外三十四年間の教職生活で、瀬戸内町、喜入町、奄美市、日置市、姶良市での生活を経験することができました。この間も各地に住んでおられる与論島出身の方々（鹿児島与論会、名瀬与論会、加治木町では奄美会）に声をかけていただき、励ましていただきました。各地で頑張っておられる方々に感謝することです。

その故郷与論町は、以前の勤務の時、ちょうど奄美復帰５０周年記念・町制施行四十周年記念の節目であり、帰郷した本年度は、奄美復帰六十周年記念・町制施行五十周年記念の節目であり、躍動への気運を感じるこの節目に教育行政の仕事に携われる喜びを感じてます。一方で、実際には、多くの方の激励をいただき、教育への期待の大きさに重圧を感じ、これまでの立派な与論の教育行政や数々の教育実践の成果をきちんと引き継げるかという不安が大きいというのが本音です。まだ、いろいろと知らないことも多いのも事実ですが、教育委員の方々、事務局職員、教育に直接担当する方々の情熱や知識と知恵、そして豊富な経験を生かし、与論町の教育行政が、確実に、創造的に発展するよう全力を尽くしたいと思います。

多くの方が育てられた与論の教育風土（人、歴史・伝統・文化、自然）の素晴らしさを確かに引継ぎ、よりよく創造・発展させ、住んでいる人が生き甲斐を感じ、そして島外に住む人が誇りにできる「誠の島」の「誠の教育」の推進に、あらゆる関係機関や組織・人との連携・協力を大切にして頑張りたいと思います。多くの御支援・御協力・御意見をお願いいたします。

最後になりましたが、台風24号で被災された方々の一日も早い生活等の復旧と充実をお祈り申し上げあいさつと致します。

国指定重要無形民俗文化財 与論十五夜踊り

九月十九日（旧暦八月十五日）、与論十五夜踊りが地主神社に奉納されました。

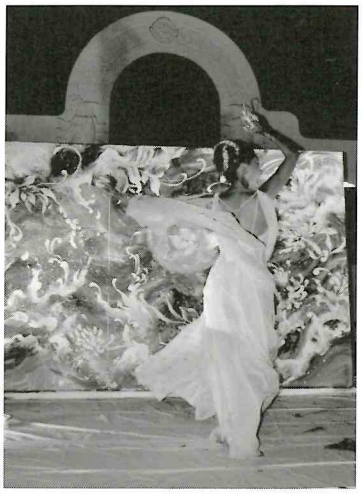
一番組

二番組

踏絵師 月酔祭

つきよいまつり

神田サオリ



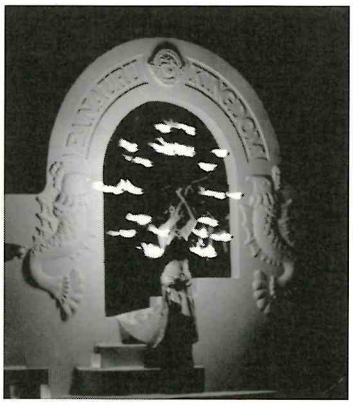
神田サオリ月下に舞う

10月9日（土）の満月の夜、茶花海岸ステージで月酔祭が行われた。イベントは、台風24号の被害を考慮し演目などを変更した。十五夜の満月の下、踊絵師神田サオリが復興の祈りを込めて幻想的な世界を描いた。

幼少期にバグダッド（イラク）とドバイ（アラブ首長国連邦）で育ち、世界の美しさと共に日本への憧憬を強烈に体験した彼女は、世界中を旅しながら様々な土地や音楽家との出逢いをエネルギーにかえて表現してきた。この日のステージは、月明かりと炎に照らされながら種々なジャンルの音楽をBGMに、大きなキャンバスに絵を描いていく。

最初はDJ・TAROMIXの幻想的な音楽に合わせて酔月のファイヤーダンスから始まった。炎を使った踊りは、見ている人を緊張させながらも華麗で妖艶だ。そのあとかりゆしバンドと東京から応援に駆けつけたフルート奏者MIYAの演奏に合わせ、真っ白なキャンバスに神田サオリが青色の絵具で描いていく。一度描いた模様が次は別の絵になる。それはまるで生き物のように刻々と変化しながら姿を変えていった。最終的にどんな作品になるのか、その時点では想像もつかない。やがて会場は石垣島出身の宮良牧子の癒しの歌声に包まれたあと、色々な音楽に合わせ神田サオリが踊り、そして祈りながらキャンバスに想いを表現していく。最後はかりゆしバンドの賑やかな曲に合わせ観客も一緒になってカチャシーで盛り上った。畳三枚くらいの大きさの白いキャンバスに描かれた絵は、その日会場に集まったすべての人のエネルギーが詰まった作品となった。

（敬称略）



トピックス

故山下中富さん、旭日単光賞受章

与論町東区の故山下中富さんが、生前の功績を高く評価され、「旭日単光章」を受章された。章状は、九月二十五日与論町役場において、南町長から息子の登志偉さんに伝達された。

山下さんは、昭和四十三年与論町議会議員に初当選し、通算二十四年の在職期間において、豊富な経験と卓越した判断力により農水産業の振興や住民福祉の向上等に献身的に取り組むとともに、議会の円滑な運営と健全な発展にも努力を重ね、広く地方自治の発展に尽くした功績を認められた。

また、東区集落の老人クラブの会長として、クラブの活動を集落の各種団体と連携して積極的に推進した。特にゲートボール大会を通した異年齢層との交流は、東区老人クラブに生き甲斐や勇気を与えるとともに、健康で住みやすい集落づくりに大きく貢献した。

平成二十五年度敬老訪問（九月十四日）

新百歳おめでとうございます
いつまでもお元気で！

立長　喜村真子さん

茶花　仲田ウトさん

立長　遠山ウシさん

敬老の日の前日、平成２５年度の敬老訪問が行われ、三名の新たな百歳長寿者に沖永良部事務所下高原誠所長から祝状及び記念品、また南町長から祝金が授与されました。

朝戸敬老会

100回を迎える!!

九月十六日正午より、朝戸自治公民館において朝戸敬老会・記念式典及び祝賀会が開催されました。

集落では、親和・自治・奉仕をモットーに、毎月1日を親孝行の日と定め、敬老・親孝行運動の推進を行っています。朝戸敬老会は大正四年から始まり、今回で百回目を迎えることとなりました。

今年度の敬老対象者は四十九名で、そのうち二十四名が出席され、手作りの料理や演芸を楽しまれました。祝賀会では、与論こども園児・与論小学校職員をはじめ、子ども会・青年団・壮年会等各種団体から盛りだくさんの演芸がありました。

また、敬老者の方も出演され、百回目の節目となる素晴らしい敬老会・記念式典及び祝賀会となりました。

敬老者の皆様には、今後ともどうか変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、そしていつまでもご壮健で心豊かな人生を過ごされますようご祈念致します。

切らずに治せる「がん先進医療」

粒子線は従来の放射線とは異なり、止まる位置でエネルギーが最大になるという物理的特徴があります。その為、体の中のがん病巣のみを狙い撃ちできるので、まわりの正常組織への影響を最小限に抑えることが可能です。治療中は痛みや熱など何も感じることはありません。

指宿の高台に位置するメディポリスがん粒子線治療研究センターでは、平成 23 年の開業以降 843名の治療を行っています。
がんは、患者さんだけでなく家族にとってもつらい病気です。一般的に入院して治療を受ける患者さんは、家族と離れての生活になります。ここでは敷地内にある宿泊運動施設等の連携で家族も一緒に滞在する事が可能です。のんびりとくつろぎながら豊かな気持ちで家族と滞在し励ましを受けながら治療をする新しいスタイルの医療施設です。

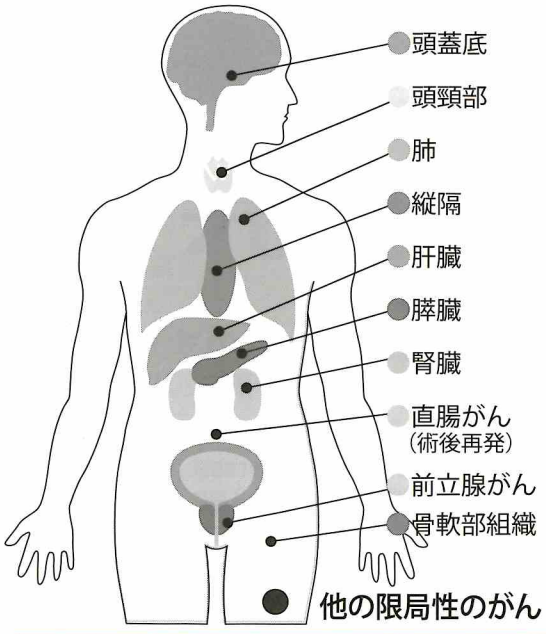
粒子線治療の特徴

手術不要　痛みがない　副作用が少ない　社会復帰が早い

患者さん専用相談窓口
●電話番号
(0993)24-3456
●ホームページ
http://www.medipolis.org/
「治療を希望される患者さんへ」ページの患部別のお問合せフォームへお進み下さい。

一般財団法人 メディポリス医学研究財団
メディポリスがん粒子線治療研究センター
〒891-0304 鹿児島県指宿市東方 5188 番地
TEL (0993) 23-5188　E-mail : info@medipolis.org

粒子線治療の適用部位



●治療症例実績

前立腺	330	腎臓	6	その他	113
肺	146	頭頸部	43	合計 843	
肝臓	128	膵臓	77	10月25日現在	

●粒子線治療の治療費　288 万 3千円

※粒子線治療にかかる費用は全額自己負担となります。
※がんの種類や大きさ、照射回数に関係なく、1つのがん病巣に対する治療費です。

●粒子線がん治療費の利子補給制度について　(鹿児島県ホームページより)

粒子線治療は，放射線の一種である陽子線を用いた治療法で，先進医療に位置づけられています。治療費は約３００万円と高額であり，健康保険の適用がないため全額が患者の方の自己負担になります。そこで，県では，県民の方々が粒子線治療を受けやすい環境を整備するため，この施設で粒子線治療を受ける患者ご本人やそのご家族等が治療費を金融機関から借り受けた場合に，その利子の一部を助成する事業を始めました。

【対象者】患者本人（鹿児島県民）または家族など
【対象借入金】借入金のうち粒子線治療相当分
【利子補給率】６％以内　【利子補給期間】５年以内
【その他】所得制限などあり

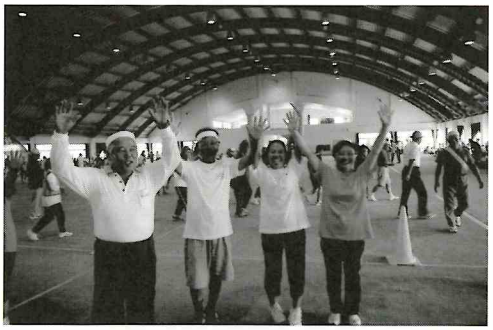
申請に必要な資料などは、県ホームページからのダウンロード及び地域振興局保険福祉環境部健康企画課で入手できます。

イボーツの秋到来

✪九月二十九日、さわやかな秋空の下で、三小学校の運動会が開催された。

✪九月十五日、与論中学校の体育祭が開催された。

九月二十四日、多目的屋内運動場において、第二十八回福祉大運動会が開催された。大会には六十歳以上の各集落の老人クラブと、身体障がい者福祉協議会・手をつなぐ育成会の合同による合計十一チームの三百名程が参加し、恒例の玉入れや輪投げ、チーム対抗リレーなど十二種目の競技で熱戦が繰り広げられた。競技種目の中には、座って行う競技やタイムを競わずにゆっくりと時間をかけてできる種目もあり、参加者はそれぞれの体力に応じた種目に参加して、会場は終始笑いと熱気にあふれた思い出深い大会となった。



大会結果　優勝　立長親和会
二位　古里老人クラブ
三位　東区朝日会

イベントのお知らせ

「海を守る植樹教育事業」

植樹祭

とき：平成２５年１２月２３日（月）
ところ：与論町コーストルリゾート
主催：与論町B&G海洋センター
共催：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
協力：与論町　教育委員会
公益財団法人　地球環境研究機関　国際生態学センター

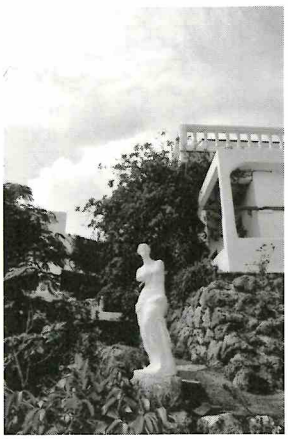
【お問い合わせ先】
NPO法人ヨロンSC（総合型地域スポーツクラブ）
〒891-9301鹿児島県大島郡与論町茶花2045
与論町B&G海洋センター内
TEL／FAX0997-97-5023 http://www.yoronsc.com
【担当】池田　【休館日】水曜日、１２／２９から翌年１／３

特集 島の人間力 阿由葉辰夫

ギリシャ村構想

一九七〇年代に観光ブームを迎え、全国にその名が知られ、早四十年になろうとしていますが、私が与論に初上陸したのは、沖縄本土復帰の前年の冬でした。民宿のヘルパーを半年、その後はアルバイト先の土産品店でパイプウニ細工の技術を習得し、幾多の出会いと運命に導かれて、昭和五十一年の夏（与論空港開港）に銀座通りのど真ん中に六坪ほどの小さな店をオープンさせましたが、順調にブームの波に乗り、絶頂期にはグレードアップした新店舗を二軒経営するまでになりました。当時の状況といえば観光客は夏休みに集中していた訳ですが、凄まじい勢いで押し寄せ、若者を中心とした船旅での大量輸送、大量消費というかたちで与論島全域を被った感じでした。

八十年代からは、沖縄に客を奪われるように徐々に観光客が減り始めましたので、その対策としてヨロンパナウル王国建国事業を全町をあげて展開したことでありました。そしてギリシャ国ミコノス市との姉妹都市盟約の締結という運びになりました。私は、この年に那覇国際通りに支店を出し、沖縄市場に目を向けて双方の店を掛け持ちで運営し、結局店舗は二年間卸部門を入れて、約十年間活動しました。九十年代に入るとバブル崩壊、価格破壊のあおりを受け沖縄から全面撤退し、与論での生活を重視し将来についてのビジョンを描きはじめるようになりました。東南アジアからのおみやげ雑貨の輸入は好調で資金も回っていましたので、希望をもって海外仕入れに励んでいました。しかし銀座通り商店街の衰退が現れはじめた頃から貸店舗から脱却して、テーマ性のある大型観光施設を自前で構築しようと土地を探しはじめたことです。最終的に現在地に導かれ、原野から段階的に建物を建て店舗の設計を考えるまでになりました。ウドノスビーチと接する近隣の観光業者を集め、観光型集落として活性化を図ろうと提案したことでありますが、そこにギリシャ村のイメージが描けたことです。ミコノス通りの命名式があり、コースタルリゾート計画と行政の動きに着目して官民一体となったまちづくりを推進しようとギリシャ村構想を提案し、茶花湾一帯の統一された景観形成のため、外部からの有識者を招いての景観シンポジウムを三年連続で開催し行政に理解を求めたことです。それから十年が過ぎ、コースタルリゾート計画の完成と宇和寺団地の再建も成され、私たちの活動が実を結んだと喜んでいるところであります。その間ギリシャ交流も盛んになされ、ミコノス姉妹盟約を記念してのギリシャフェスティバルを十二回、二〇〇九年の二十五周年にはツァマドス大使ご夫妻をお招きしたことでありましたが、ギリシャ村実行委員会の解散とギリシャ経済危機などの影響もあり最終となりました。



観光における「食」

観光業を通して直接観光客に接し四十年、店づくりを考え満足のいくサービス提供、観光ピーアールのあり方などの活動は行政、観光協会、事業者と立場と力量に違いはあるにせよ、目指すは観光の再興であることです。私は長いこと土産品づくりということで営んできた訳ですが十年前に飲食店を併設してから観光における「食」の大切さに気付かされたことです。泊まる・食べる・遊ぶの三大要素であり必ず外食というかたちで食欲を満たす行動に移るのです。加えて雰囲気とロケーションを求めての「食」が観光の醍醐味なのです。「食」にこそ付加価値をつけて食材に拘った料理はもちろんのこと、ロケーションを活かした店づくり与論滞在を倍にして楽しませるのが「食」の力だと思います。この夏ギリシャ村の庭を活用してピザーラを開店させ、本格的石窯ピザの提供を始めました。来店客と食を通じて交わりがあり喜んでもらえることが一番

特集

島の人間力

阿由葉辰夫

で、ギリシャ村のコアとして良好な結果を生んでいます。それぞれの地域に食の豊かさを創出し、酒宴のみならず雰囲気と味わいを楽しむ「食」による観光を推進できたらと考えています。

自慢の石釜の前でとびっきりの笑顔を見せる阿由葉さん

新たなムーブメント「癒やしとウォーキング」

観光地として賑わったのは昭和までの記憶であって、バブル崩壊後から二十年余りの与論は、映画「めがね」にみるような観光ブームが去った後の黄昏状態とも言える低迷を続け今日まできています。映画が上映されて七年になりますが、映画による与論島のイメージは現代社会において何もない自由へのあこがれ、たそがれる時間こそが癒やしとして目的かされロケ地与論島は素のままに旅行者を迎え入れ、彼らの心を掴んでいるようにかんじられます。ベルリン国際映画祭で表現描写のすばらしさで特別賞をもらった名作として、今後も与論島の地理的イメージを発信していくものと考えられます。そこで問題とすることに与論島の存在位置をどのように認知させるかとにあります。行政区は鹿児島県でありながら、生活風土は沖縄北部に近く住民意識もまちまちだと思いますが、観光的想像空間イメージとして白砂と青い海は南国沖縄に通じるものです。されど生活文化は、与論独特の雰囲気を創り出し、基地もないハブもいない楽園とも映る南の島です。同じ奄美諸島でありながら奄美大島とも違い、ましては鹿児島の観光イメージからはかけ離れている訳です。与論島のスケールメリットは観光資源として大いに活かされるものと考えます。一島一町の行政区であり、ハジピキパンタからは全島が一望でき、近隣の島々もはっきりと確認できます。歩いて観光するためのトイレ施設も二十二回大会を終えたヨロンマラソンの成果としてあります。いま歩くことを目的とした観光形態が九州全にフットパス協会が主導して全国的に活動しています。商工会全国展開事業で、離島初のフットパス協会公認のウォーキングコースの選定と地図づくりが進められています。沖縄でもない鹿児島でもない与論島が、独自の存在を九州最南端の島という位置付けで日本全国に紹介されることになると思います。外国人旅行者の視点からすると九州は一つであって、福岡が表玄関で長崎・熊本・鹿児島と縦走して船旅で沖縄に渡るというコースが存在しますが、英語表記による情報発信がなされていない現在は、ほぼ素通り状態です。欧米からの旅行者のみならず在日外国人に対しても早急に観光ピーアール、受け入れ施策を講じる必要があると強く感じています。一過性に終わる観光イベントによるピーアール活動より将来に向けた観光政策として最優先だと思います。

おわりになりますが、観光の恩恵を受けて移住歴四十年が過ぎました。旅人として訪れたこの与論島に住み続け、島の豊かさ、島の宝、島のやさしさを感じています。いまこの自然体の与論島が、通年型の観光地として価値を持ちはじめています。住民のひとりひとりがそのことに気づき、私たちのこの島を好きになり愛していくことが、最も大切であることを今回の文筆活動を通して発見できたことです。ありがとうございました。

ミッシークトートゥガナシ

与論献奉改正論

ヨロン牛

ひとこと モ～し上げます

私は島外の出身。少量の酒でも二日酔いになる。宴会の翌日は体調不良。飲酒が苦手な人間である。「盃を返すことは相手を拒絶したと見なす無礼な行為。お酒が苦手でも、義理で相手の盃を楽しく受け入れることが社会人としての礼儀である。」という考え方は与論に限らず日本文化にある。酒が苦手な人にとってつらい文化である。与論に来る前は、酒が苦手な私でも宴会の場で他人から注がれた酒を「義理」で飲んでいた。しかし、与論献奉はどうしてもなじめず、違和感を払拭できなかった。体力的に耐えられなくなり、それでは失礼かと思うようになり与論献奉がある宴会はやむを得ず欠席するようになった。

私の与論献奉に対する感想を述べたい。裸の王様に登場する周囲の空気を読まず本当のことを無邪気に喋ってしまう子供のように・・・

①一つの盃で回し飲みすることに対する不衛生感を禁じ得ない。口腔内には千億以上の細菌がいる、病原菌も存在するという。衛生上の配慮に欠けていると言われても仕方がない。

②与論献奉を何人も断ることができないとの条文はやや強引な感が否めない。断る権利も認めるべき。断れない空気が苦痛。

③お酒は合法だが、飲みすぎれば体に悪いドラッグ。適物適量一回の条文があるにもかかわらず何周も献奉を繰り返す度の過ぎた人たちを誰も止められない。「献奉違反」が黙認されることがいたたまれない。

④長い年月を経てアルコール依存や肝臓の病気等で苦しむ危険性が高い。飲酒を強要する行為は悪いことなので、本来ならば強要を控える雰囲気になるはず。しかし、そうならない。

⑤出張や旅行で来島した人が二日酔いに陥り与論島の良さを満喫できずに帰ってしまう。与論に対してマイナスイメージを持たれる。リピーターを減らす遠因を作っていないか。

二〇〇五年九月二十四日の南日本新聞に与論島民の意識調査で二割の島民は与論献奉廃止を望んでいると記載されている。二割も存在する献奉廃止論者の立場で与論献奉を論じる機会も必要。

そこで提案したい。

一、与論献奉を改正する

第二条

与論献奉は全町民の真心を主賓に献上してから関係者全員（希望者）に施行する

第四条

与論献奉は平等（希望者）に施行し何人たりともこれを断ることはできない（権利を有する）

二、与論献奉を始める前に、我慢して無理に飲まなくて良いことを告げる

三、感染症防止のため自分専用の杯の利用を認める

これなら、酒の苦手な私でも与論の宴会を楽しめる。

税務署からのお知らせ

e-Taxに関する情報は、e-Taxホームページをご覧ください

利用開始の手続き、受付時間、パソコンの環境、e-Taxソフト（WEB版含む）の操作方法、よくある質問など、e-Taxに関する最新の情報についてお知らせしていますので、ご利用の前にご確認ください。（www.e-Tax.nta.go.jp）

また、平成２５年８月１日（木）からe-Taxの受付終了時間が２１時から２４時に拡大されました。大島税務署（電話0997-52-4321）※自動音声案内

バンブー竹の ユンヌ今昔

あだなしとぴぬい

今年もまた台風が島を襲った。繰り返す悲しみは、日照りと嵐がもたらしている。島を挙げての「与論十五夜踊り」の願いが神様に届いてくれなかったのは、私のシーポー（作法）が間違っていたのだろうか？など、信心深い私は思ってしまうのである。台風も干ばつも自然の営みでしかないのに、人間が勝手に自分の都合で要求していることの愚かさに、我々は早く気付くべきであろう。

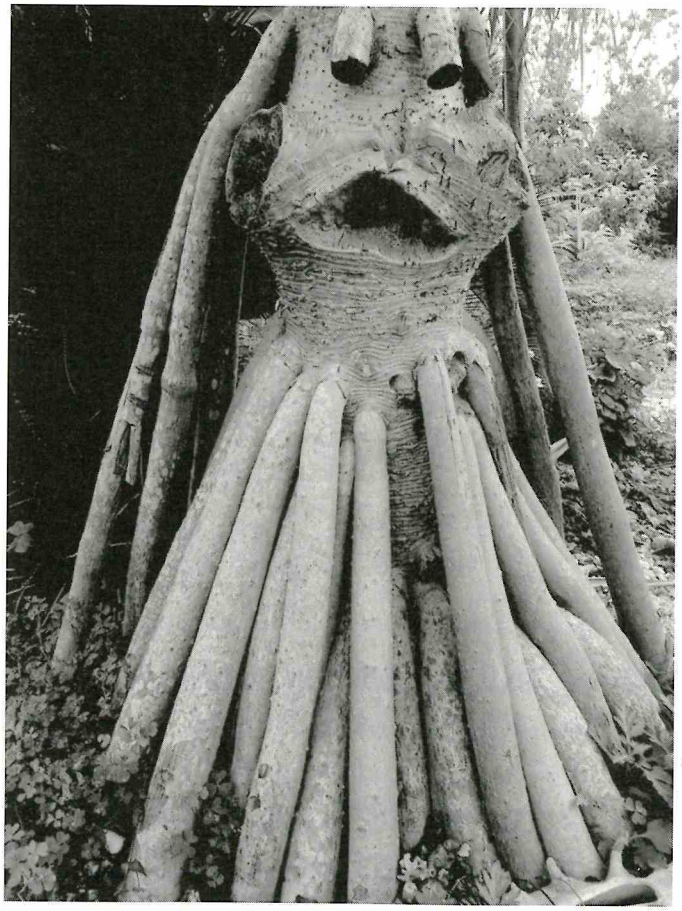
台風の通過後は、近所の海岸を見回ることにしている。船倉海岸は、私と愛犬の朝の散歩道であるが、この海岸については念入りに観察を続けてきた。砂浜の浸食を確認するためだ。今年の台風の通過後は、漁港の斜路に砂が堆積したまま放置され、砂浜が昔の形に戻ったままになっていた。度重なる台風と漁師の高齢化で、斜路を利用する人が減っているのだろう。景観と生活のどれを優先させるのか、町に調整してもらいたいものだ。

さて、前置きはとっといて・・・。「あだなしとぴぬい」と題して何か書いてみよう。

「あだなし」はアダンの気根のことで、「ぴぬい」は紐のことである。アダンは別名タコノキと呼ばれている。台風襲来の度に、海岸の最前線で潮風に耐え抜いて生えている有用植物だ。四方八方に支柱根を張り巡らし、タコの足のように幹や枝葉を支えている。パイナップルのような形をしたオレンジ色の実は、白い砂浜やエメラルドグリーンの海、そしてどこまでも澄んだ青い空によく似合う。（アダンの木陰で涼んでいる、ビキニの御嬢さんによく声をかけたっけ・・還暦を過ぎたおじさんのはれやかな青春の懐かしい想い出だ）

陸と海岸との境目に群落を作っているアダンは、私たち暮しに欠かせない植物だ。果実は美味しいとは言えないが、一応は食べられる。枯れた葉は薪になり、若芽は追い込み漁の材料や食材、そしてアダナシ（支柱根）は、紐の材料となる。加工法はいたって簡単だ。アダナシ（支柱根）を板状に裂いて陰干しをするのだ。それを指で細かく割いて、わらしべの大きさにして縄をなうのである。縄（ぴぬい）には色々な材料が使われていた。強いと思われる順番で並べると、棕櫚（ちぐ）、アダン（アダナシ）、蘭草（ビー）、月桃（サニン）そして、わら縄であった。

幼い頃、紐つくりの作業の手伝いをさせられ、褒められたことと、作業の手伝いもせず私にいたずらをして遊んでいた小児麻痺の叔父さんを懐かしく想い出した。



「アダナシ星人」？

広報 よろん
2013. 11 VOL. 294

月酔祭

台風24号災害復興を祈る踏絵師 神田サオリ

発行：与論町 編集：総務企画課
〒891-9301鹿児島県大島郡与論町茶花32-1
TEL 0997-97-3111 FAX 0997-97-4197
WEB：http://www.yoron.jp E-Mail：sy-kouhou@yoron.jp